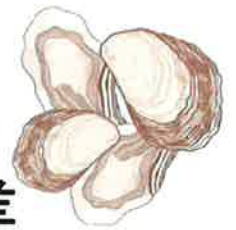




令和7年度

広島平和記念式典派遣事業
事業報告書



目次

はじめに

1 実施目的と研修の概要	1
2 参加者名簿	3
3 現地研修行程	4
4 事前研修会	5
5 現地研修	6~10
6 事後研修会	11
7 成果報告会	12
8 日光学まつり・生涯学習フェスタ	13
9 学習の成果報告	13~15
10 参加者の学習成果、感想	16~18

《資料》広報にっこう掲載記事、ひろしま平和の歌
下野新聞掲載記事

はじめに

令和7年(2025年)の夏は第2次世界大戦後80年となる節目の年でした。広島・長崎への原子爆弾投下を含む戦時中の出来事はあれだけの大事件・大惨事であっても社会科の教科書で取り上げられているのは数ページです。当市ではその内容を補完するため、独自の教材を作成し中学2年生を対象に平和学習として広島・長崎の原子爆弾投下を中心に戦争について学習しています。しかし、授業の中で教科書や資料から学ぶことは「戦争は昔の出来事」であり、もう終わったこと、自分には関係のないこと、という感覚に陥りがちです。この夏、この節目の年に当市の中学生11人が広島市を訪問し、広島平和記念式典へ参列することができました。今回の派遣事業実施にあたり、広島市長をはじめとする関係者の皆様が平和への想い、伝承に対する熱い使命感をもってさまざまな取り組みをされていることに対しあらためて敬意を表するとともに、子どもたちに多くの学びを提供していただいたことに対し心より感謝申し上げたいと思います。また、保護者の皆様には子どもたちの研修参加に対し、ご理解とご協力をいただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。

子どもたちは広島で被爆体験者の方やそのご家族のお話を見聞きし、建物の被災様子などを目の当たりにしたことで、日本で戦争があったこと、日本に原子爆弾が投下されたことは教科書の中の遠い昔の出来事ではなく、その苦しみ、悲しみは現在進行形であり、自分ごととして捉えることができたのではないのでしょうか。

8月下旬に実施された成果報告会では「被爆体験者の方が高齢化し、実体験を直接聞ける機会がどんどんなくなってきている。」「戦争を繰り返してはいけない、この平和への想いを未来へ繋いでいけるだろうか。」「これからは私たちが伝えていかなければならない。」と平和の大切さを語り継いでいくことを自分たちの使命として捉える生徒が多くありました。そして、その言葉どおり、秋に開催された学校の文化祭などでその思いを伝える姿も見られ、頼もしく感じたところです。

結びになりますが、本事業が次世代のリーダーとしてこれから活躍してくれるであろう子どもたちの平和への歩みの第一歩となるよう、そしてより多くの人に平和への願いを伝えられるスピーカーとして活躍してくれることを祈念し、一人ひとりの今後の取り組みを期待いたしましてごあいさついたします。

日光市教育委員会 教育長 関 孝和

Ⅰ 実施目的と研修の概要

(1) 目的

- ①本市の将来を担う中学生を広島市に派遣し、平和記念式典に参列することを通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを学ぶこと。
- ②成果発表会にて自分の目で見、感じて、学んだことを多くの人に伝え、次世代へ平和への祈りをつなげること。

(2) 事業内容

市内中学校生徒を広島市に派遣し、平和記念式典に参列するほか、事前・事後研修を通して学びを深め、成果報告・発表で、より多くの方へ体験や学んだことを伝える。

(3) 主催

日光市教育委員会

(4) 派遣対象

- ①市内在住の中学2年生：12名(公募)
- ②随行：4名(教育委員会事務職員3名、教職員1名)

(5) 参加条件

- ①健康状態が良好で、規律ある団体生活ができる方(長距離のバス移動があります。)
- ②下記(6)の日程全てに参加できる方
- ③事業終了後に行うアンケートに回答できる方
- ④広報紙やホームページ等への写真や名前等の掲載にご了解いただける方

(6) 事業スケジュール

- ①事業周知(市ホームページ、広報、学校へのポスター掲出)
令和7年4月中旬より
- ②募集(Logoフォームでの電子申請)
募集期間：令和7年5月1日(木)～30日(金)
- ③参加者・保護者向け説明会 ※希望者多数のため公開抽選を実施
令和7年6月20日(金)18:30～20:30 市役所本庁舎中会議室202
- ④事前研修会
令和7年7月5日(土)9:00～16:00 市役所本庁舎中会議室202
令和7年7月25日(金)18:30～20:30 市役所本庁舎中会議室203
- ⑤現地研修
令和7年8月5日(火)～7日(木)

⑥事後研修会

令和7年8月30日(土) 9:00~14:00 市役所本庁舎市民ホール

⑦成果報告

令和7年8月30日(土) 14:00~15:00 市役所本庁舎市民ホール
(市長、教育長、保護者、学校の先生等への報告会)

⑧成果発表

令和8年2月28日(土) 10:00~14:00 大沢公民館
(日光学まつり・生涯学習フェスタでの活動報告発表)

(7) 現地研修での主な見学先

①広島平和記念式典【参列】

②平和記念資料館、原爆ドーム、本川小学校平和記念資料館【見学】

③広島国際会議場(ひろしま子ども平和の集い)【傍聴】

④宮島(厳島神社)【見学】

(8) 利用交通機関及び宿泊先

①交通機関:JR、広島電鉄、借上バス、路線バス等

②宿泊先:広島市内ホテル

(9) 参加者負担金

25,000円(宿泊費2泊、食事代5回分の一部相当)

※その他、疾病及び傷害の治療費用、小遣い及び個人的に必要な経費は自己負担

2 参加者名簿

◎中学生

NO.	班	氏名	ふりがな	学校名
1	1班	岸野 岬	きしの みさき	中宮祠中学校
2		小林 遼太郎	こばやし りょうたろう	中宮祠中学校
3		鈴木 心咲	すずき みさき	今市中学校
4		高橋 広樹	たかはし ひろき	大沢中学校
5		高橋 利奈	たかはし りな	大沢中学校
6		伴場 文	ばんば ふみ	今市中学校
7	2班	青柳 百咲	あおやぎ もよ	大沢中学校
8		小林 華穂	こばやし かほ	中宮祠中学校
9		斎藤 亜衣奈	さいとう あいな	今市中学校
10		神馬 武一郎	じんま たけいちろう	日光中学校
11		野澤 海乃	のざわ かの	今市中学校

◎広島派遣同行者(研修指導担当)

	氏名	ふりがな	所属
1	石澤 宏明	いしざわ ひろあき	湯西川中学校平和学習担当教員
2	阿部 剛英	あべ よしひで	生涯学習課
3	菅原 菜々美	すがわら ななみ	生涯学習課
4	津布久 佐苗	つぶく さなえ	生涯学習課

3 現地研修行程

時間	8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)
5:00		起床	
5:30		朝食	
6:00			起床
6:30	市役所集合・出発式	ホテル出発<<徒歩移動>>	朝食
7:00	<<借上げバス>>	式典会場到着【平和記念公園】	
7:30		受付	荷物発送準備・自由時間
8:00	宇都宮駅 8:11 発	平和記念式典参列	
8:30	<<東北新幹線>>		ホテル出発
9:00	東京駅 9:04 着	献花	<<路線バス>>
9:30	東京駅 9:30 発	<<徒歩移動>>	路面電車見学
10:00	<<東海道新幹線>>	こども平和サミット傍聴【広島国際会議場】	広島駅ビル散策
10:30	官島の班別行動の確認		
11:00			広島駅 11:03 発
11:30			<<東海道新幹線>>
12:00	昼食(弁当)	<<徒歩移動>>	
12:30	広島駅 13:27 着	折り鶴の奉納【平和記念公園】 ※3日目雨予報のため前倒し実施 <<徒歩移動>>	昼食(弁当) 個人発表、グループ発表の準備
13:00		おりづるタワー見学<<徒歩移動>>	
13:30	広島駅 13:45 発<<JR山陽本線>>	昼食※和ダイニングアストラ	
14:00	官島口 14:11 着 官島 14:25 発<<フェリー>>	<<徒歩移動>>	
14:30	官島 14:35 着	本川小学校平和資料館見学	東京駅 14:57 着
15:00	班別行動	<<徒歩移動>>	<<徒歩移動>>
15:30	厳島神社と周辺散策	平和記念公園散策	丸ノ内鍛冶橋駐車場<<借上げバス>>
16:00			
16:30		平和記念資料館見学	
17:00	官島 17:00 発<<世界遺産航路>>		
17:30	平和公園 17:45 着		
18:00	原爆ドーム見学 <<徒歩移動>>	公園内散策 サミット記念館など	車中解散式 ふりかえり実施
18:30	夕食※レストラン&カフェ+和田	<<徒歩移動>>	日光市役所着・解散
19:00		夕食※鉄ばん屋弁兵衛大手町店	
19:30	<<徒歩移動>>		
20:00	ホテル着	<<徒歩移動>>	
20:30		ホテル着	
21:00	入浴・自由時間		
21:30		入浴・自由時間	
22:00	就寝	就寝	

4 事前研修会

事業内容や日程の理解と、参加者同士の交流を深めることを目的に、全2回の事前研修会を開催しました。その他、抽選会において保護者の方も一緒に事業説明を行っています。

◎抽選会(参加者と保護者)

①日時 令和7年6月20日(金)18:30~19:40

②場所 日光市役所本庁舎2階中会議室202

③内容 事業説明、抽選会

※応募者14名から12名を決定→途中、自己都合により1名参加辞退

(1)第1回事前研修会

①日時 令和7年7月5日(土)9:00~16:00

②場所 日光市役所本庁舎2階中会議室202

③内容 自己紹介、仲間づくりゲーム、タブレット端末の設定、広島・戦争についての学習、歌の練習、千羽鶴制作準備

(2)第2回事前研修会

①日時 令和7年7月25日(金)18:30~20:30

②場所 日光市役所本庁舎2階中会議室203

③内容 千羽鶴メッセージ作成、平和記念式典についての学習、役割分担、日程・持ち物の確認、諸注意、行動計画作成、歌の練習

第1回目の研修会では、仲間づくりゲーム、タブレット端末の設定、広島、戦争について学習し、ひろしま平和の歌の練習や千羽鶴を作成するため、実際に折り紙で鶴を折ってみました。



第2回目の研修会では、千羽鶴に添えるメッセージの作成、平和記念式典の流れ、役割分担の決定や持ち物の確認などを行い、歌の練習も行いました。

全2回の事前研修を通じて、徐々にメンバーが打ち解け、当日に臨むことができました。



5 現地研修(広島市・廿日市市)

○1日目:8月5日(火)晴れ

日光市役所に集合し、出発式を行いました。
参加者を代表して、中宮祠中学校の小林華穂さんがあいさつをしました。

ご家族の皆様に見送られ、マイクロバスにて宇都宮駅へ、そこから東北新幹線で東京駅、東海道新幹線に乗り換えて広島駅へ向かいました。

現地研修まで2回事前研修を行っていましたが、まだまだ緊張がとけない様子。車中お弁当を食べ、広島につく頃には少し打ち解けてきたかな・・・という様子でした。



広島に着いて一番初めに向かったところは宮島です。広島駅からJR在来線に乗り換えて廿日市市へ向かいました。主な目的は日光の二社一寺と同じく世界遺産に登録されている厳島神社の見学です。建設された時代も立地も異なる社殿は海の上ならではの工夫がたくさんあることがわかりました。干潮の時間帯でしたが大鳥居近くは海水が引いていなかったため遠くから記念撮影するのみとなりました。厳島神社を出るとたくさんのお土産屋さんや食べ物屋さんが並んでおり、班別に散策しました。

宮島から平和記念公園まで直通便となる「世界遺産航路」を利用し広島市へ戻りました。原爆ドームを間近に見学し、明日、この会場で行われる平和記念式典に参列する実感が湧いてくるとともに、多くの報道関係者がテレビ中継や取材を行っている姿を目にし、日本中、世界中で注目されているのだなと感じました。



夕飯はホテル近くのレストランを予約しました。
神馬武一郎さんの号令で「いただきます」
テーブルいっぱいになんだ洋食に大満足でした。
明日にそなえて早く休みます。



○2日目:8月6日(水)晴れ

【平和記念式典】

2日目の最初の難関は早起きです。6時30分にはホテルを出発するため、朝食は5時30分には食べられるようになっていました。ホテルには同じ目的で宿泊されている方が多数おり、朝早い時間でもたくさんの方が行き来していました。歩いて20分ほどで平和記念公園に到着しましたが、すでに受付には長蛇の列ができていました。ようやく入場し、席に着いた時には8時近くになっていました。



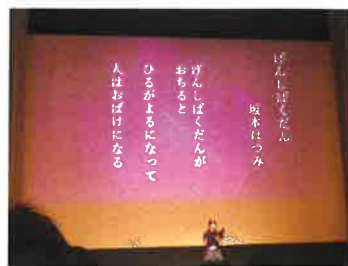
【献花】

式典終了後、献花の列に並びました。地元の方とお話してきて「遠いところからありがとう」「自分たちは毎年献花にきているのよ」と交流することができました。途中、下野新聞社の取材を受け、(翌日8月7日の新聞1面にインタビュー記事が、特集ページに写真が掲載されました)日光市の子どもたちの献花の様子がNEWS23のエンディングで流れるなど、取り上げていただきました。献花の列は夕方になっても続いていました。



【第1回こども平和サミット】

平和記念公園内にある広島国際会議場にて第1回こども平和サミットを傍聴しました。被爆体験者 梶谷さんのお話は今も深い悲しみ、後悔に苦しんでいることが伝わり、戦争は繰り返してはいけない、核兵器は使ってはいけない、という強いメッセージを受け取りました。全国の中학생、高校生の平和への取り組み発表も同世代として頼もしく感じられ、私たちにできることは何か、を考えるきっかけになったと思います。



【折り鶴の奉納】

予定では3日目に行く予定だった折り鶴奉納ですが、明日は雨予報ということで急遽2日目に行くことになりました。参加した11名の子どもたちが自ら、家族と、友人と取り組んだ千羽鶴をメッセージとともに奉納してきました。

広島市ではたくさんの折り鶴が奉納されるため、一定期間経過後は焼却するのではなくメモ帳やふせん、卒業証書などにリサイクルしているそうです。おりづるタワーのお土産コーナーにメモ帳が販売されていました。



【おりづるタワー】

平和記念公園近くのおりづるタワーを見学しました。展望台からの景色は素晴らしく、広島城や広島駅など原爆で一度破壊されたまちとは思えない街並みを一望することができました。

施設内には折った折り鶴を建物の高さまで積み重ねるブースがあり、3人までしか一度に入れない、というスケルトンの足元にびくびくしながら高層階から下層階へ鶴を飛ばして平和を祈りました。



【昼食】

お昼はメルパーク広島内のレストランで和食定食をいただきました。小林遼太郎さんの号令です。朝早くに起きて、朝ごはんも早かったのでお腹はペコペコ。器にきれいに盛り付けられた食事をおいしくいただきました。



【本川小学校平和資料館】

爆心地から一番近くにある小学校で被爆当時の建物が資料館として開放されています。コンクリートが崩れ、分電盤などの金属が溶けたままの建物がそのまま保存されており、熱風・爆風の威力がどれほどすさまじかったかが伝わってきます。当時の広島市内の模型も展示されていて、被爆前後の変化を見比べることができました。みな食い入るように真剣なまなざしで展示品を見ていました。



【平和記念資料館】

混雑を避けて夕方の時間から見学しましたが、それでも館内はひと・ひと・ひとでごった返していました。外国籍の方も多く見られ、関心の高さが伺えます。多くの被爆者の遺品や生活の記録が展示されており、なかには目を背けたくくなるような写真等もありましたが、誰一人目を背けることなく、ひとつひとつ真剣に心に刻んでいるようでした。



【夕食】

時間の都合で灯籠流しを見ることはできませんでした。最後の夜は広島風お好み焼きが食べられるお店で夕飯です。高橋広樹さんの号令で「いただきます」。



○3日目:8月7日(木)雨のち曇り

本研修最終日。前日まで雨予報だったため、予定していた平和記念公園での折り鶴奉納は前日に前倒して実施しました。1日目、2日目と朝早くから夜遅くまでめいっぱい活動していたので、最終日は朝ホテルでゆっくり過ごすことに多数決で決まりました。といっても8時30分には出発です。朝は6時30分から朝食をとり、帰りの身支度や荷物整理を済ませ、何部屋かにまとまってゲームやおしゃべりを楽しんだようです。



広島駅に着いて、今年8月3日に駅構内へ乗り入れがはじまった広島電鉄の路面電車ホームを見学し、駅ビルで最後のお土産タイム。それぞれ思い思いの買い物を楽しみました。



新幹線では成果報告会の資料作りやグループ発表の役割決めを行い、あっという間に東京駅に到着となりました。東京駅からバスにのりかえ日光へ。3日間の研修を振り返り、感想やこれからのこと、メンバーへの感謝を伝える解散式を行いました。



市役所到着のタイミングで退庁される瀬高市長と遭遇し、そのまま集合写真に入ってくださいお言葉をかけていただくことができました。



6 事後研修会

成果報告会の準備のため、事後研修会を開催しました。タブレット端末を活用し、スライド、読み原稿を各自事前に作成し、発表の練習を行いました。

- ① 日時 令和7年8月30日(土)9:00~13:45
- ② 場所 日光市役所本庁舎1階市民ホール
- ③ 内容 成果報告会の発表の練習



7 成果報告会

保護者や市内小中学校の関係者等を対象に、本研修での成果報告会を行いました。

- ① 日時 令和7年8月30日(土) 14:00~15:00
- ② 場所 日光市役所本庁舎1階市民ホール
- ③ 内容 学習成果のまとめの発表、活動報告(スライドショー)



8 日光学まつり・生涯学習フェスタ

日光市生涯学習課主催のイベント内の発表ステージにて、多くの方が見守る中、学習の成果を発表しました。

- ① 日時 令和8年2月28日(土) 12:00~12:30
- ② 場所 日光市大沢公民館会議室
- ③ 内容 学習成果のまとめの発表、活動報告書の展示



9 学習の成果報告

【1班】




広島派遣事業～宮島～

私達がこの三日間の初日に向かったのが宮島である。宮島内で私が最初に紹介させて頂くのが厳島神社である。まず厳島神社の前提知識として、一九九六年に「世界文化遺産」に登録された日本三景であり、海運や交通安全、金運、必勝祈願などのご利益があるという神社という事を頭に入れて欲しい。私は本殿での御朱印やおみくじなどはやらなかったが、お賽銭は入れてみた。お賽銭を入れた感想だが、お金を出すためにカバンをいじっていると、後ろが詰まって「あの…これ並んでます？」と聞かれたのでお賽銭を入れる際には、あらかじめ用意しておくのが良いと思うというのが感想である。これは結構「マジ」である。でもこれもある意味魅力の一つだと私は思う。何故なら「観光客が多いという証」と私は思うからである。しかしながら、厳島神社には特に国外からの観光客(勿論自国の方も沢山いる)が多くて納得な魅力が沢山ある。先ほど紹介した、御朱印、おみくじにお賽銭もそうだが、やはり本殿も大鳥居も道力があるとおかつ日本でしか見られないとても綺麗な景色であるという事が沢山ある中で特に大きな魅力なのかと実際に行ってみると私は思う。私達は高潮時にしか行っていないため、高潮時の景色も見たいなと思った。厳島神社の魅力についてもう少し詳しくやっていると、宮島の他の魅力が書けなくなってしまうので、次に移らせていただく。

次は宮島に生息する「神の使い」についての話である。神の使いと呼ばれるこの生き物は意外にも宮島全体で自由気ままに生活をしている。神の使いが一体何なのか、この記事を読んでくださっている博識な皆様ならもう想像はついてるはずだ。そう「鹿」である。この鹿と呼ばれる神の使いは神の使いだけあって人に馴れ馴れしく、とっても可愛い。だがここで、博識である貴方は一ツ気になる点があるのではないだろうか。そう、それは本宮は「神の使い」が鹿ではなく「カラス」だという事だ。神の使いがカラスではなく鹿と誤認がされてしまったのは、「奈良の春日大社では、鹿が神の使いとして崇められている」このことから「宮島にも多くの鹿が生息しているため、奈良の神鹿のイメージから、宮島も鹿が神の使いだ」と誤解する人が結構いるためである。違和感に気づいた貴方はとっても博識だ。気づけなかった貴方は今ここで覚えてとっても博識になろう。私は鹿が好きなのもっと語りたいたいところだが、一旦ここで、区切らせていただく。

最後は「買い食い、お土産」に関してだ。食べ物に関してだが買い食いもお土産もどれも本宮に美味しそうなものばかりで心が久しぶりにとぎめいた。プライベートでできたわけではないので、買い食いは控えたいが控えすぎたかもと今は思う。また、お土産もそんなに買っていかなかったので今度は色々な種類のお土産を沢山買って帰りたいところと思う。お土産は食べ物以外に雑貨も充実していたので友達とお揃いの物を買いたいと思っている。買い食い、お土産に関しては私事になってしまいがち残り時間が結構あったのでリベンジしたいと思っている。

まだ紹介しきれない魅力が宮島には沢山ある。だから是非貴方も行って見て楽しんで欲しい。もし貴方なりの魅力が発見できたなら私に教えて欲しい。次に私が行く時の参考にさせていただこうと思う。ご覧いただきありがとうございます。

広島での学び

戦争から学ぶ平和・平和を考えた三日間

広島平和記念式典

広島平和記念式典では内閣総理大臣などのさまざまな代表者の意見を聞くことができました。さまざまな方が自分の意見で平和の大切さ、尊厳やこれからはどうしていくのか、などを強く主張していました。一人一人が違う自分の伝え方で伝えていたけれど結論的な部分みんな揃っていたところがしっかりと伝わり、式典の目的が果たされ、やる価値があるのではと自分は思いました。また参加される方々もとても多く、様々な国の方もいました。

80年前のあの時からたくさんの人々が世に広め平和のことを今までつないできたということがこのように形に現れていて素晴らしいなと思いました。このようなことから自分も今後、繋がれてきた思いを自分の意見で正しく繋ぎ続けていきたいと思いました。



広島平和記念資料館・本川小学校平和資料館

広島平和記念資料館では実際に被爆した人の言葉や遺品を目にしました。衝撃を受けるものもありましたが、被爆者の悲しみ、苦しみに溢れた気持ちに心が響きました。特に被爆者の手紙や日記を読んだときは、人々の気持ちがひしひしと伝わり、胸が痛みました。



本川小学校平和資料館では、実際に被爆した跡を見ることができました。黒い煙の跡がついた天井や、壁が崩れている様子などが印象に残りました。展示物からは、被爆時や被爆後の小学校の様子がわかりました。被爆後に運動会をしている写真が印象に残りました。当時アメリカから届いたビー玉や、熱で変形してしまった瓶など、悲惨さや過酷さの伝わるものが多く展示されていました。



実際に原爆を体験した巖谷文昭(かじやふみあき)さんから遺囑した際の状況や避難経路をお聞きしました。とても印象に残る貴重な経験になりました。

第1回子ども平和サミットの傍聴

傍聴の際には「げんしぼくだん」という詩の一枚印象に残りました。短く、わかりやすい詩でしたが、原子爆弾のおどろろしさなどが強く表現されていました。



平和への取り組み発表では、私と年の近い中学生や高校生などが自分たちで考え、実際に取り組んでいることを発表していました。生徒が主体となって平和への取り組みを行っているということにとっても驚きました。

平和記念公園

平和記念公園周辺でははじめに原爆ドームを目にしました。私が驚いたことは原心地から近くにも関わらず建物が残っていたことです。爆心地近くのほとんどの建物がなくなってしまう、復旧し今の広島街になっている中、原爆ドームは被爆する前の面影が感じられるほど残っている建物でとてもすごいと感じました。

次に私たちは折り鶴を奉納しました。他県の方達の折り鶴をみて、千羽鶴だけでなく鶴をメッセージにしたり、様々な形にされていて伝えたい思いが沢山込められている鶴なのだ、と思いました。

次に私たちは折り鶴タワーに行きました。折り鶴タワーでは沢山の方が鶴に思いをのせ、鶴を折っていました。



まとめ

平和記念式典はとても重要なものなのということがはわかっていましたが、今回の派遣事業に参加して、改めてとても重要な行事だということが感じられました。また、平和に対する想いが揃っていることが感じられました。この式典に参列したことで、今まで繋がれてきた想いが証明され、私たちも次に繋げていけるといいと思いました。

私たちが今回現地で目にしたのものには、広島悲劇を伝えたい、2度と起こらないでほしい、という現地の人の思いが込められているものがたくさんありました。中には、衝撃を受けるものもあり、当時の悲しみや苦しみに溢れた気持ちや様子がわかり、それを思い出すたびに胸が苦しくなります。

3日間広島に行って、当時の様子の悲惨さや残酷さ、辛さをよく知ることができたので、当時広島で起きた出来事を胸に深く刻んで、もっと多くの人に伝えていきたいなと思いました。この掲示物を見ている皆さんにも私たちの想いが少しでも届くといいなと思っています。



広島でふれた 過去の記憶

まずフェリーで広島まで行きました。フェリーでは思ったより風が強くて写真を撮るのに大変でした。また、橋水島では見ることのできない海を近くで見ることができました。



原島神社の大鳥居の高さは16m以上もあり、写真で見た時よりも迫力がありました。私が特に驚いたことは、国内外問わず多くの観光客がいるにもかかわらず、参道にごみが落ちていなかったことです。観光地ということもあり、そのような乳児やママはしっかりとしているんだと感心しました。原島神社は普段より観光客が少なかつたらしく、写真を撮ったり、おみくじをひいたり、ゆずり餅をたべることができました。また原島神社から見ると自然もとても綺麗でした。

原島神社を観光し終わった後は、安芸町の商店街でお土産を買いました。日光寺の商店街よりも金へ歩きや飲み物を売っているお店が多く、種類も多かったのですが、飲み物やお土産を売っている店が少なく、お土産の数が少なくなりました。また、湯やお店の間に当たり前の音が聞こえました。買ったお土産を店頭に置いて見ている姿が可愛かったです。偶然にゆずり餅があったため、各自買いたいお店を回ることができました。



平和記念式典では、原爆で亡くなってしまった方々に思いを込めて献花や献花を捧げることができました。今までより平和の大切さと命の尊さについて考えることができました。



特に印象に残っているのは、二人の小学生の平和への思いで「One voice」と一つの言葉でも変化をもたらすことができる」というメッセージです。大人だけではなく子供である私たちも平和について取り組むことができるというほどとても心に響きました。

私は広島平和記念式典を通して平和の尊さや献花、平和の大切さ、命の尊さをより多くの人に伝えたいと思いました。



私たちは**第一回こども平和サミット**に参加し、多くの影響を受けました。読者の **梶谷文隆さん** の体験談は想像を超える程のもので、自身の幼いころまでの記憶、被爆直後に苦しみ、水を求める人々の様子などが鮮明に目に焼き付いていました。



文隆さんの体験談には平和を守るための取り組みをしている中学生たちの発想がありました。例えば北海道の子供達の通っている学校では平和に対する考え方を学校全体で考えよう、生徒会組織を島の経済の本拠とを話し合わせる、などの取り組みを行っていました。他にもたくさんの発表団体がありました。

私はこれらを聴き、自分たちも今年学年などから活動の場を広げ、学校の文化祭などで戦争や平和に関するこの発表をし、生徒たちの平和への考え方を広げていきたいと思います。



本川小学校資料館では、校庭に落ちていた物などが展示されていました。溶けたガラスの塊から屋根瓦まで、たくさんものが校庭に転がっていたとわかりました。なかには原爆ドームの柱の一部も展示されており、柱の一部が飛んできてしまうほどの威力があったことを改めて実感することができました。



特に印象に残ったことは、資料館自体が当時の本川小学校の一部であったことです。浮き出た鉄骨に、溶けた金属、そして、壁に残った当時の傷跡。それらを間近で見ても、まるで当時の本川小学校の中に取り残されたように感じる事ができました。

そして、感じた時、「本川小学校にいた生徒たちはここでいつも通りの朝を迎えていたはずなんだ」と胸が痛みました。私はこの本川小学校資料館で感じたこと、思ったことをたくさんの人に伝えたいと思いました。

平和記念公園周辺の原爆ドームでは、教員が刺さり出しの状態で、壁がゴロゴロで、私が資料で見た被爆前の活気を失い、次の世代に戦争の苦しさと残酷さを伝えるために、そびえ立つ姿は、不気味さとも感じると同時に、この世のものとは思えない異様な姿をしていました。



大きな折り鶴を頭の上で抱えている少女の像、原爆の子の像で私たちは、折り鶴を奉納しました。折り鶴を奉納するガラスケースには、私たちが折ってきた鶴と違って、刺の色を工夫して、文字や絵をつけているものもありました。折り鶴を奉納し、私たちも平和を祈る1人になれたと思います。

また、ガラスケースの中には色とりどりの種類の折り鶴で溢れていました。この活動は非常にもつなげてほしいと願っています。

おりづるタワーの壁には、自分の希望の朝から晩まで広島が風が広がっていました。床は木が使われ、陰になっていて、風通りが良いため開放感を味わうことができました。そのあとは、12階に降り、おりづる広場で、実際に折り鶴を折り、おりづるの壁に投下して早朝への想いを積み重ねることができました。



10 参加者の学習成果・感想



中宮祠中学校
岸野 岬

【感想】

広島記念式典派遣事業に参加して、私は平和や戦争に対する意識が少し変わりました。研修の前から平和の大切さは理解しているつもりでしたが、広島平和記念式典に参加したり被爆した人の講話を聞いたりして、本当の尊さを知ることができました。また、戦争を体験していなくても語り継いでいいと、自信を持つことができました。これからも、この経験を活かして、戦争に対する考えや知識をより多くの人に伝えていきたいです。



中宮祠中学校
小林遼太郎

【感想】

広島平和記念式典派遣事業の事前研修では、原爆などについて詳しく調べる中で今の私たちには当たり前にある平和がいかに尊くありがたいことなのかということを知ることができた。次に現地研修での広島平和記念資料館では、被爆した物や、被爆により皮膚を火傷し垂れ下がった人や、大量のガラスが突き刺さった人の資料を見て、原子爆弾の恐ろしさについてより詳しく知り、原爆という出来事をより自分ごととして感じ、二度と繰り返してはならないことだと強く認識した。最後に事後報告と成果発表では仲間の意見を見て、新たな学びを得ることができたとともに、体験してきたことを自分だけのものとして終わらせずに、人々に伝えることができた。



今市中学校
鈴木 心咲

【感想】

これまで生きてきた13年間は戦争や平和をあまり意識せず生きていたけれど、9ヶ月の学習で学校では学ぶことができなかった戦争への考え、平和の大切さ、尊さを学ぶことができた。そして、過去はもう『戻らない』ということを決意して今回の広島平和記念式典に参列して考えた。これから生きていく私たちが戦争の残酷さや平和の大切さを伝えていかなければ私たちは今回学んだ地獄を繰り返してしまうということも再度考え直すことができた。



大沢中学校
高橋 広樹

【感想】

自分は参加する前、広島のことには少しだけ知っていてその他の感情の部分など全く知らなく考えることもしませんでした。ただこのような機会に出会い参加し、色々な視点や深く考えることができました。

九ヶ月間の学習で自分は原爆の恐ろしさ、被爆者方の気持ちや平和の尊さなどからこのことを伝えてきた方々の気持ち、仲間との協力やコミュニケーションの大切さなどの様々なことを学びました。自分は発表することなどもとても苦手でしたが今回のことを通し、発表することに少し強くなった気がします。

自分は今回のことを体験し原爆のこと、広島のことについて周りの人々からたくさんの人へ伝えていきたいと思いました。参加してとてもよかったです。



大沢中学校
高橋 利奈

【感想】

9ヶ月間、広島のことに関わって、事前研修ではまだ出会ったこともなかった仲間と自己紹介をしたり、レクリエーションをして、仲を深めることができました。広島派遣では、原爆の悲惨さや、命の尊さ、当時の方達の辛い気持ちなどを実感することができました。事後研修では、発表のスライドなどを使って、自分の伝えたいことをしっかりと具体的にまとめることができました。発表会では、自分の伝えたいことだけでなく、広島で起きた出来事や、自分が目にしたものもなるべく伝えるように発表することができました。

これからも広島で起きた出来事などを伝えていき、後世につないでいくことができればいいなと思います。



今市中学校
伴場 文

【感想】

広島平和記念式典派遣事業に参加させていただき平和への考えと原爆への理解を深めることができました。また知らなかったことを知れたり、行ったことのない場所へ行ったり、沢山の人の前で話したり、今まで食べたことのないような美味しい物を食べられたり、この事業に参加していなかったら中学生というこの時期に体験できなかったと思うことを沢山経験できてとても良かったと思いますし凄く楽しかったです。この経験は中学校3年間の内の一生忘れられない思い出になるとと思います。私は広島平和記念式典派遣事業全体を通して色々な人の人生がより豊かで穏やかな毎日を送ることができるように活かしていきたいと思います。



大沢中学校
青柳 百咲

【感想】

広島平和記念派遣事業に参加させていただいて、事前研修から戦争や広島の魅力についてたくさんのことを学び、自分が今まで知らなかった広島を知ることができました。そして直接現地に訪れて、厳島神社の美しさや、歴史。そして何より、戦争の痛ましさ、苦しさ、辛さを肌で感じる事ができ、この出来事を決して風化させてはいけなく強く感じました。

そして迎えた成果発表会では、私たち11人が現地に行って感じたこと、思ったこと、伝えたいことをたくさんの方々に伝えられるとても良い機会をいただきました。また2月の発表会でも、多くの方にご清聴いただき、たくさんの感想をいただき、これからも戦争がどれだけ悲惨なものかたくさんの人に伝えていきたいと思いました。



中宮祠中学校
小林 華穂

【感想】

私は今まで日本とアメリカの戦争について、歴史の教科書にも載るぐらい昔の出来事で、しかも日光では被害が少なかったこともあり自分とは遠い出来事だと考えていました。しかし今回実際に「原爆ドーム」や「広島平和記念式典」に参列して、日本国民として他人事では済まされないような大きな出来事だったのだと感じました。今でも心に傷を負った人たちがいることも、原子爆弾の威力も初めて知りました。また、私と同じくらいの子供たちが平和について考え、大きな舞台で発表している姿を見て心の底からすごいと思いました。私はこれらの経験を今回の発表だけでなく、いろんなところで広めていきたいと思いました。



今市中学校
齋藤 亜衣奈

【感想】

私にとって9ヶ月間という期間はあっという間に過ぎ去ってしまいました。この中で多くのことを学ぶことができました。最初、平和記念資料館に入ったとき私は衝撃で言葉を発する事どころか、思考を巡らすこともできませんでした。今思えばこの衝撃こそ私の中に大きな変化や考えをもたらしてくれたのだと思います。見聞きするだけでは到底理解し得ない悲惨さ、実際に見ることの大切さ、そこから気付くことの出来る戦争の重みや当たり前のように過ごしている日常の尊さ、平和記念式典を続けていくことの大切さ。全てがとても貴重な経験であり気づきでありました。戦争を知らない世代にこれからもこうしてどんどん伝えていきたいと思いました。



日光中学校
神馬 武一郎

【感想】

私は、広島県在住の子供代表の平和への誓いで「One voice たとえ一つの声でも学んだ事実に思いを込めて伝えれば変化をもたらすことができるはず」というメッセージが心に残りました。大人だけではなく中学生の私でも平和のために行動することができると感じました。まずは相手の話を受け入れ認め合い思いやりの心で話し合うことができれば傷つき悲しむ人がいなくなると思います。周りの人たちのためにほんの少し行動することが大切だと思います。そして、素晴らしい仲間と出会えたことが貴重な体験となりました。このような機会をいただきありがとうございました。



今市中学校
野澤 海乃

【感想】

私は、この事業に参加して、平和や戦争について色々な想いの形を知ることができたと思います。報告会でお話した目標の、この過去を過去で終わらせないために、沢山の人に私たちの見たこと、感じたことを伝えることは達成することができました。どのくらいの人に伝わったかわかりませんが、私自身の中でこの9ヶ月の体験は生き続けます。今、世界では戦争が続いている国があります。人の命も心も奪い取ってしまう戦争は、誰も幸せにはなれません。戦争はテレビの中の話ではないことを現地に行って強く感じました。この研修事業は、もうないけれど、私はこの体験をこれからも沢山の人に伝えていきたいと思っています。

注目
1

令和7年度 広島平和記念式典派遣事業現地研修

8月5日(火)～7日(木)の3日間、市内中学校2年生11名が広島市などを訪問しました。

研修参加レポート

●平和記念式典

広島市長による「平和宣言」や、小学生2名による「平和への誓い」を聞きました。その後、「ひろしま平和の歌」を参加者全員で合唱し、平和への思いを共有しました。



献花を行う参加者たち

●第1回こども平和サミット

被爆体験者の講話や全国の子どもたちの平和への取組みを聞き、戦争の悲しい記憶に触れ、「今の私たちにできることは何か」を考える時間になりました。

●広島平和記念資料館・本川小学校平和資料館

建物に残る生々しい傷跡や当時の記録写真などを見学し、一つ一つ胸に刻むように目に焼き付けてきました。

参加した中学生の声



戦後80年となり被爆体験者から話を聞く機会がどんどん失われています。これからは私たちが「平和の大切さ」を伝えていかなくてはいい感じました。



「平和」は当たり前ではなく「今、本当に幸せなんだな」ということを実感しました。

日光学まつり・生涯学習フェスタで成果発表

今回の研修で戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを学習しました。学んだことや感じたことをより多くの人に伝え、共有することを目的として、成果発表を行います。



日にち…令和8年2月28日(土)

会場…大沢公民館

くわしくは 生涯学習課 ☎0288-21-5182・市ホームページID:9722

★みんなで練習したひろしま平和の歌です

ひろしま平和の歌

Hiroshima Peace Song

広島市連発
重園資雄詞
山本秀氏曲

Selected by Hiroshima City
Words by Yoshio Shigenono
Music by Mamoru Yamamoto

くもしろく たなびくところ
Ku mo shiro-ku ta-na-bi-ku to-ko-ro. So-
らのはて ひがしににしに
ra no ha-te hi-ga-shi ni ni-shi ni. O-
おたかくこだまひげと
o ta-ku-ku ko-da-ma hi-bi-ke to. Ka-
ねはなる 平和のかにい
ne wa na-ru he-i-wa no ka-ne ni. I-
まわれら おおしくたちて
ma wa-re-ra o-o-shi-ku ta-chi-te. So-
のさかえ ここにおこさん
no sa-ka-e ko-ko ni o-ko-san

- 雲白くたなびくところ
空のはて東に西に
おお高くこだまひげと
鐘は鳴る平和の鐘に
いまわれら雄々しく起ちて
その栄えここに興さん
- 波青くたゆとおとこ
海のはて南に北に
おお遠く祈りとどけと
鐘は鳴る平和の鐘に
いまわれら試練を越えて
その行手ここに仰がん
- 風清くかがやくところ
国のはて世界の友に
おお熱く想いかよえと
鐘は鳴る平和の鐘に
いまわれら手をさし伸べて
その睦みここに歌わん

広島市を世界平和の原点にしようという願いから、昭和22年8月に「平和祭」を挙げるにあたり、同年7月、主催団体である広島平和祭協会(会長 広島市長 浜井信三)が歌詞を公募し、豊田郡の中学校教師 重園資雄氏の作品が選ばれ、山本秀氏(広島教育音楽連盟)が作曲しました。

敬けんな祈りの中で厳粛に行われた同年8月6日の第1回平和祭で高らかに合唱されました。以後、平和記念式典で歌い継がれている清らかな歌です。

記憶継承 誓い新た

広島県は、大戦末期に原子爆弾が投下されてから約80年(昭和50年)が経ち、戦争を体験する世代はほぼいない。戦争の記憶を継承する責任は、戦後生まれの世代に受け継がれるべきだ。本紙記者は、広島県に生まれ育つ、中学生を中心に、戦争を体験する世代の記憶を継承する責任を、改めて問う。

本県 遺族10年ぶり、中学生参列



広島県立広島南高等学校の生徒らが、広島平和記念資料館を訪れ、戦後初めて遺族の参列を見学した。

広島県立広島南高等学校の生徒ら約100人が、広島平和記念資料館を訪れ、戦後初めて遺族の参列を見学した。生徒らは、資料館の展示物や、遺族の講話を聞き、戦争の記憶を継承する責任を改めて問うた。本紙記者は、広島県に生まれ育つ、中学生を中心に、戦争を体験する世代の記憶を継承する責任を、改めて問う。

戦後80年 広島原爆の日 本紙記者 水

核兵器の廃絶 市民総意に

抑止力依存に危機感

広島県民は、核兵器の廃絶を強く望んでいる。市民総意に、抑止力依存に危機感を覚えている。本紙記者は、広島県民の核兵器廃絶への思いを、改めて問う。

下野新聞 2025年8月7日(木) 掲載【掲載許諾済】

原爆下りム・平和記念資料館

思い物語る遺品、意義重く

ヒロシマ

「平和記念資料館」を訪れた中学生ら。遺品の展示を見学し、戦争の記憶を継承する責任を改めて問うた。

被爆者なき 未来への継承

本紙記者 原爆80年の地 訪ねて

下野新聞 2025年8月16日(土) 掲載【掲載許諾済】

ヒロシマ派遣 2025 県内中学生報告

日市の派遣報告 2に引き続き、広島県内各地の中学生が、ヒロシマ派遣に参加し、戦争の記憶を継承する責任を改めて問うた。本紙記者は、県内各地の中学生の報告を、改めて問う。

当たり前じゃない平和

中二の生徒が、平和について考えた。当たり前じゃない平和。戦争の記憶を継承する責任を改めて問うた。本紙記者は、中二の生徒の考えを、改めて問う。

下野新聞 2025年8月16日(土) 掲載【掲載許諾済】

風化させず語り継ぐ

広島派遣の中学生報告 日 光。平和の大切さを語り継ぐ。戦争の記憶を継承する責任を改めて問うた。本紙記者は、広島派遣の中学生の報告を、改めて問う。

生徒たちは、今年7月7日の日原に派遣され、平和記念資料館や「第一回」平和和マラソン」に参加した。平和記念資料館で平和記念公園を散策した。

下野新聞 2025年8月31日(日) 掲載【掲載許諾済】

被爆地で「昔い」実感

「いつかは訪れたい」という思いを抱き、広島県に派遣された。被爆地で「昔い」実感。戦争の記憶を継承する責任を改めて問うた。本紙記者は、被爆地での体験を、改めて問う。

下野新聞 2025年9月1日(月) 掲載【掲載許諾済】



発行日 令和8年3月

主催・発行 日光市教育委員会

編集 日光市教育委員会事務局生涯学習課

